日本マス・コミュニケーション学会
2005年度秋季大会

ワークショップ2
日本人の情報行動結果から見た
メディアの代替・補完関係

メディアの代替・補完関係と間メディア性

木村忠正
http://www.f.waseda.jp/kimutada/hp.j.html

総務省「ネット実名騒動」

- 2005年6月
- 「情報フロンティア研究会」(國領二郎座長;2005年3月～6月) 報告書をめぐる新聞メディア報道とその波紋

研究会の議論に関する報道

- 6月10日『「SNSでITリテラシー底上げを」――総務省研究会』Yomiuri Online
- 6月14日「子どもはみなブログを持て！ニッポンの明日には、ブログが一番！」Yomiuri Online
- 6月23日「子供にブログぅ？！…ブロガーたちが大ブーイング」Yomiuri Online
- 6月27日『実名でのネット活用を促す　総務省「悪の温床」化防止』(共同通信)
- 6月28日研究会報告書公開

報告書の基本的考え

- ネットの安心感を高めるための具体策の1つとして、学校でのSNSやブログ活用を提言
- 校内LAN限定のセキュアな環境で、実名やハンドル名ベースで交流してもらうという提案
- 発言に責任を持たせつつ、身近な人と交流する中で、ネットへの抵抗感を薄れさせたいという考え
- ネット上でのプライバシー侵害など、個人情報保護への考え方も同時に学ばせたいとした

総務省への大ブーイング

- 「ネットの実名化を推進する」「ネットの“悪の温床”化を防ぐ」といった内容の記述は皆無
- ところが、同時期に総務省の別研究会で、ネット情報に関する第三者「有害判定委」のようなものを検討しているとの報道
- 相乗的に、総務省、研究会 (報告書) への反発がネット世論に生起

ネットの再帰的自浄作用

- ブログをきっかけに議論の軌道修正がなされるという動き
- ある個人ブログが「報告書を読まずに批判するのも、賛成するのもリスクのある行為」と指摘
- 報告書をHTMLに変換して自身のサイト上に掲載し、報告書について言及したブログにトラックバックを張って回った
- 誤解は急速に沈静化

「間メディア性」

- 遠藤薫「インターネットと＜世論＞形成」
- ネットとマスメディアとの「間メディア性」（両者の共依存関係）を指摘
- ネットには独自の体系的で大規模な取材網はない
- そこで、マスメディアでの何らかの情報を手掛かりとする必要がある
- 何かネットコミュニティの琴線に触れる情報があると、それがたちどころにネット世論を喚起する

「間メディア性」

- たとえばそれは、佐世保の少女殺害事件であり、音楽会社のキャラクター商標登録
- ネット市民たちの中には、たまたまその出来事に関連した独自の情報を持つものも
- そうした情報がネット世論を駆け抜け、今度はそれをマスメディアが取り上げ、報じる
- すると、そのマスメディア報道自体がネット世論を刺激

メディアコンヴァージェンスと情報行動研究

- 今後の研究では、メディアコンヴァージェンス、間メディア性を含めた情報行動研究が望まれる
- TVモニターとパソコン、インターネット接続という機器・サービスの独立性・非互換性にもとづく区分とサービス、機能の問題が現状でもかなり混乱が起きている
- 今後は一層そうした混同が進展するのではないか
- そのための調査設計の問題

石井会員の発表

- 時間的代替と機能的代替（時間的は、あくまで、機器そのもの、機能はそうではない）
- 時間的代替は支持されない
- 機能的代替は支持される（ただし、非利用⇒利用者の主観的情報源利用データにもとづく制約はある）
- テレビとPCネットとは機能でどうしても代替できない部分がある？（＞くつろぎ、リラックス、習慣的受動的など）
- Webcasterの問題（＞動画視聴という機能とそれを実現するメディアの区分）

金会員の発表

- テレビとPCネットとの同時並行行動
- 日記式によれば
  - 自宅でPCネット利用　26.4％
  - その人たちの平均利用時間　80分
- テレビとの関係で、ネットによる時間剥奪的代替関係はみられない
- テレビ視聴時間が長い人ほど、並行行動を行う
- 複合時間的視聴がテレビでは多いのではないか？テレビはくつろぎメディア
- 「家族団欒メディア」というテレビの共同幻想
- PCは個人メディア＞「情報生態学」の必要性